

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	鈴木 基子 比較社会文化学専攻2013年度生		論文題目	張愛玲『小団円』にみる恋愛と結婚 ——伝記と小説との比較を通して——
審査委員	主 査:	宮尾 正樹 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : <span style="float: right;">否</span>
	副 査:	和田 英信 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	伊藤 さとみ 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	戸谷 陽子 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	杉村 安幾子 教授 (日本女子大学)		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)		<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている	
(英語名)	(Ph. D. in Chinese Literature)		<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている	
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

## 学位論文審査・内容の要旨

本論文は、中国近代文学を代表する女性作家張愛玲(1920～1995)の自伝的長編小説『小団円』(出版は没後の2009年)について、作品が執筆された場所である米国での生活を参照しつつ、作品に登場する主要な三人の女性の生き方や価値観を、作中人物のモデルとの比較を通じて明らかにするとともに、女性人物をめぐる作品世界の構造を明らかにし、作品に表れた張愛玲の価値観、とりわけ恋愛・結婚観について論じ、これまで初期の代表的短編小説に基づいて作り上げられてきた作家像の再検討を図るものである。本論文は序章・終章と本文7章から成り、第1章では張愛玲の生涯をこれまであまり論じられてこなかった渡米後の生活に重点を置いて紹介整理する。第2章では、張愛玲の作品の受容史を整理する。第3章では『小団円』の成立過程、時代背景と内容及び先行研究を紹介する。第4章では、ヒロイン盛九莉の恋愛や結婚に対する考え方について、恋愛相手となる3人の男性の性格や生き方をモデルとなった人物と比較することを通じて整理し考察する。第5章では、張愛玲が大きな影響を受けた叔母張茂淵をモデルとする人物、盛楚娣の恋愛・結婚について、宗族家父長制・宗族慣習法・儒教思想を参照して考察する。第6章では、ヒロインの母について、娘の生き方と比較してその相違点を明らかにし、原因を考察する。第7章では、張愛玲が渡米後に結婚した米国人ライアーをモデルとする人物、汝狄の人物像を整理する。以上の行論を踏まえて、終章では、世代や家族内での地位を異にする女性たちの恋愛と結婚の経歴を整理して、作品世界の構造を提示する。全体として、初期作品のみに基づいて構築されてきた従来の張愛玲の恋愛観に修正を迫るものとなっている。

審査委員会は12月22日、2月17日(書面)、2月24日に開かれた。張愛玲の「真実」を描いたとスキャンダルの取り上げられることこそあれ、文学テキストとして考察されることがほとんどなく、とりわけ日本においては作品に言及されること自体少ない状況の中で、作品をゴシップから救い出そうとした点、小説としては遺作と言ってもよい本作品が、従来の張愛玲像に変更を迫るものであることを示した点、近代中国女性の、以前の中国文学作品にはほとんど描かれなかったような恋愛・結婚のあり方が表現されていることを示した点に本論文の学術的価値は見られるものの、本文での考察を踏まえた全体の結論が十分に書ききれていない、小説テキストと伝記的記述との単調な比較に終始する傾向がある、論拠が十分に示されない主張がしばしば見られる等、不備な点がいくつか指摘され、申請者はそれらに誠実に対応して修正を加えた。2月24日の公开发表において、論文の内容をコンパクトに説明し、聴衆の質問にも適切に回答した。引き続き行われた最終試験において、学位にふさわしい学力を有することが確かめられた。以上に基づいて、本論文が博士(人文科学)、Ph. D. in Chinese Literatureにふさわしいものと委員会として判断する。